

## ヨハネの福音書 第8章 12節

「イエスはまた彼らに語って言われた。『わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。』」

陽のひかりが日毎に眩しく、強くなる季節を迎えている。野山の花々はいっせいにひかりに向き、木立の葉は握った拳がいっせいに開くように陽を浴びている。風がそよぎ、いのちの輝きが爽やかに吹き抜ける日が続く。ひかりの恵みに天地が喜びの震えを現す。

先日、ひかりの絵本を知る機会があった。ひかりの当たり具合で絵本に投射される姿、形が異なる。映し出される影がまるで生きているように変化する。ある影は横顔をなり、花に口づけをする。異なった方向からひかりが当たると、今度は誕生日のケーキのローソクを吹き消す横顔が映し出される。ひかりが当たる形は同じものだが、ひかりの方向で様変わりとなる。

光を受けることは、光に照らされることは世界が一変することにつながる。とくに、わたし、といわれる主イエス・キリストの光に照らされる者の世界は変わる。光なるお方に従う者となり、決してやみの中を歩むことがない。そして、さらに、主イエス・キリストに従う者は、いのちの光を持つとの主よりの宣言を聞く。この宣言を聞く者は主イエス・キリストの光のうちにいる。

2023年4月22日